

「土砂災害から命をまもるためには」

広島県 熊野町立熊野第一小学校 5年 ^{ひさかわ}久川 ^{ちひろ}千優

近年では、異常気象がふえ続け、各地で台風や大雨、洪水、土砂災害などのひ害が多く発生しています。その中でも、私は土砂災害について注目してみました。

土砂災害とは、山やがけがくずれたり、くずれた土砂が雨水や川の水と混じって流れてきたりすることによって人命がうばわれたり、建物を押しつぶしたりする災害のことです。大雨、地しん、火山のふん火などがきっかけで発生します。土砂災害は、大きく「土石流」「地すべり」「がけ崩れ」の3つに分類することができます。

平成30年7月の西日本ごう雨により200人以上の多くの命がうばわれました。災害の気象要因は、活発な梅雨前線による集中ごう雨でした。当時私は、5才で朝からたくさん雨がふっていたことをおぼえています。お父さんは、少し不安そうに仕事に行き、お母さんは、もしものためにひなんする準備をしていました。しばらくすると、ひなん所が開設され、近所の方々がひなんすることを知りました。でも、当時1才の妹がいて、泣くとみんなにめいわくがかかるということで、私はおばあちゃんの家でひなんすることにしました。なぜひなんしたかという、家のうらが山だったので土砂災害がおきたらこわかったからです。おばあちゃんの家で近くでは、川の水があふれたり、がけ崩れがおきて車が通れなかったり、水道が止まって水がつかえなかったり、停電したりしました。お父さんが仕事からかえれなくて、とても心配しました。ニュースなどでたくさんひ害があったことを知りました。その時の私は、まだおさなかつたので、たいへんさは分からなかつたけど、今ふりかえてみると災害のきけん性や日ごろからひなんできるように準備する大切さが分かりました。

では、土砂災害を防ぐにはどうしたら良いのでしょうか。土砂災害には前ぶれがあります。がけから小石がパラパラ落ちてくる、がけ崩れの前ぶれ、川や沢の中でゴロゴロという音がしたり、火花が見えたりする、土石流の前ぶれ、山のじゅ木がザワザワとさわいだり、木のさける音や木の根がさける音がする、地すべりの前ぶれなどがあります。このほかにもいつもと何かちがう、変だと感じたら、早めに安全な場所にひなんすることが大切となります。特に、土砂災害けいかい区域を知っておき、近づかないなどの注意が必要です。

私の住んでいる地域には、防災センターがあります。防災センターには、ひなんしている間の食料や飲み物などがありました。西日本ごう雨による土砂災害を受けて、安全なひなん場所をより多くの人々に提供できるように計画されたそうです。このようなひなん場所があると安心してひなんできると思いました。

ごう雨などの自然災害は、人間の力ではくい止めることができません。しかし、災害によるひ害は、私たちの日ごろの備えによって減らすことができます。自分でできること、家族でできること、などについて考え、いつ起きるかわからない災害に備えておくことが大切だと思いました。

。